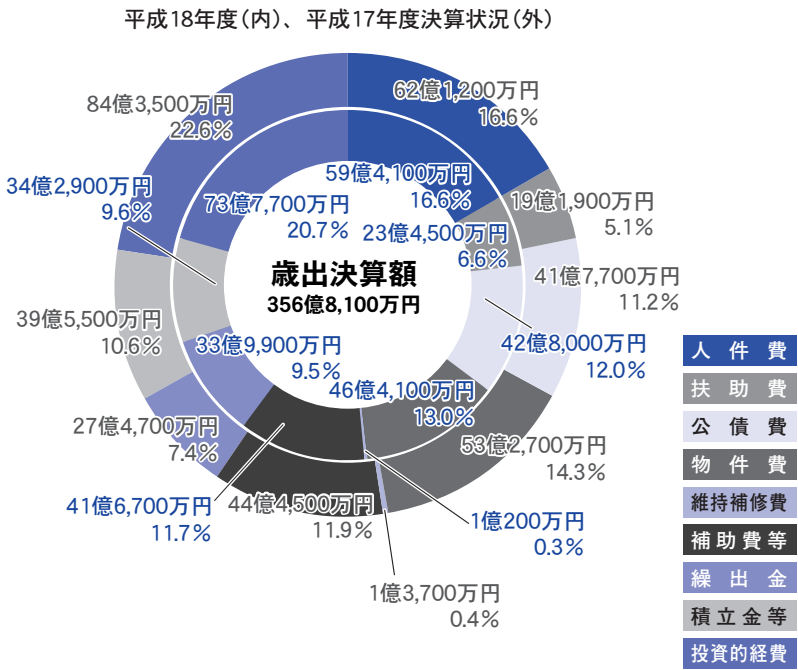




平成18年度 決算額			
会計名	歳入	歳出	差引残
普通会計	36,242,276,452	35,684,943,109	557,333,343
一般会計			
同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計	12,492,314	8,815,609	3,676,705
国民健康保険特別会計	8,806,216,958	8,249,987,710	556,229,248
老人保健特別会計	8,500,409,094	8,490,809,094	9,600,000
介護保険特別会計	5,380,816,495	5,306,117,020	74,699,475
市営保養施設特別会計	30,866,782	30,866,782	0
下水道事業特別会計	6,935,057,545	6,892,028,684	43,028,861
農業集落排水事業特別会計	195,638,434	189,162,037	6,476,397
産業団地造成事業特別会計	271,074,556	270,894,784	179,772
上川手山林財産区特別会計	2,018,569	1,746,942	271,627
北の沢山林財産区特別会計	165,077	164,362	715
有明山林財産区特別会計	1,141,425	76,437	1,064,988
富士尾沢山林財産区特別会計	1,098,580	710,357	388,223
穂高山林財産区特別会計	597,477	258,857	338,620
財産区会計			

会計名	収入	支出	差引残
公営企業会計			
水道事業	2,073,176,628	1,925,826,079	147,350,549
市営宿舎事業会計	270,765,596	272,154,159	△ 1,388,563
市営宿舎事業会計	0	16,219,271	△ 16,219,271

※水道事業会計における資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、過年度分損益勘定留保資金、建設改良積立金、減債積立金及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てん

※市営宿舎事業会計における資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、過年度分損益勘定留保資金び消費税資本的収支調整額で補てん

■歳出

歳出決算額は、357億円で、昨年度比16億7,000万円の減額となりました。

扶助費、繰出金が増加となりましたが、人件費、物件費、普通建設事業費等が減額となり、総額として減少しました。

増加となった扶助費は、生活保

護費や児童扶養手当の支給等、市として行う給付事務が増えたためです。また、繰出金については、主に下水道事業会計への繰り出しが増加したためです。

人件費や物件費の減少は、合併による経費節減効果であり、また合併に伴う庁舎改修費などの臨時的経費の減少も一つの要因です。

投資的経費については、学校施設等の大型整備事業が終了したための減少です。

平成18年度中には、7月豪雨による災害などで、被害も発生しました。このための費用も必要となりましたが、財政状況としては良好に運営されたと言えます。

■歳入

平成18年度の歳入決算額は362億円となりました。昨年度との

■はじめに

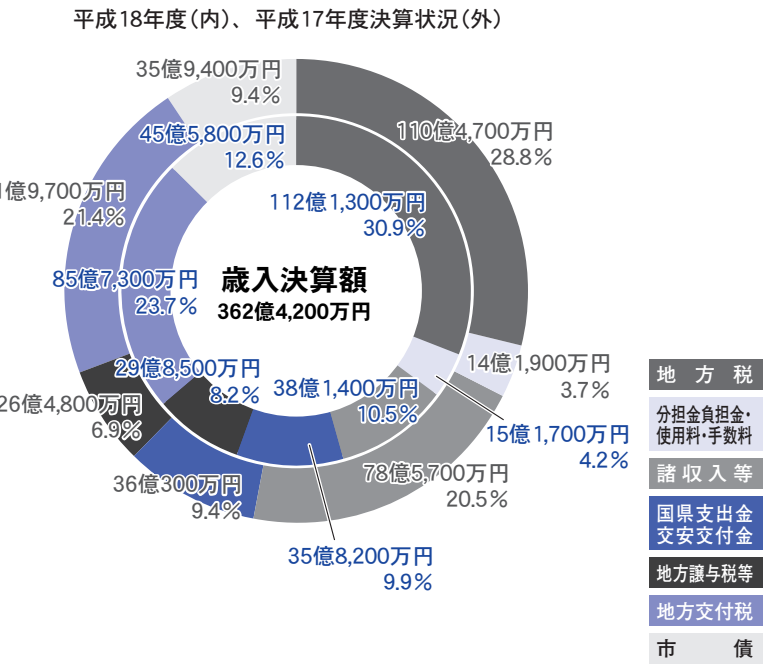
9月定例会市議会に平成18年度安曇野市の各会計の決算が上程され、認定されました。各会計の決算は左下表のとおりです。

また、この決算をもとにした普通会計の決算状況もまとめられましたので、これにより、市の財政状況などについてもお知らせします。

比較では、総額で21億円余り減額となりました。

これは、地方譲与税、地方交付税、市債は増加したものの、諸収入等の減少が大きかったためです。諸収入等の中でも、特に基金繰入額の減少(△42億8,000万円)が大きな要因で、財政調整基金や減債基金等を取り崩さずに財源が確保できたためです。

全国の地方自治体で財政の窮状が続く中、積立金を減らすことなく、堅実な財政運営が行われたといえます。



決算公表

平成18年度の安曇野市のお金の使い方「決算」がまとまりました。

昨年度、市に入ったお金(歳入)は、

※普通会計で、362億円。

使ったお金(歳出)は、357億円でした。

※普通会計とは、市民税や地方交付税などを主な財源として、福祉、教育の充実や道路の整備などの主要事業に使われる最も大きく主要な「お財布」です。全国共通のとらえ方で、自治体の財政状況を分析する上で有効なものになります。一般会計および同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計が相当します。